

○菊地恵一委員長 続いて、二十一世紀クラブの質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。吉川寛康委員。

○吉川寛康委員 通告に従いまして砂防事業費についてお伺いいたします。

本県の森林面積は県土の約六割を占めており、温室効果ガスであるCO₂の吸収源機能として、その大きな役割を担っているとともに、雨天時のダム機能としての役割も果たしており、今後も将来に向けてしっかりと保全していく必要があります。また山間部においては、森林保全と併せて溪流部の保全もこれまた重要であり、大雨時の土砂災害等を未然に防ぐことを目的にこれまで計画的に砂防ダムをはじめ、砂防事業が進められてきております。こうした中、十一月議会の補正予算として砂防事業費十億五千万円が債務負担行為として提案されており、蔵王町の松川の溪流保全工がその主な内容となっております。松川は治水上、砂防のため砂防設備を要する国土交通大臣が指定した砂防指定地であるとともに、蔵王山噴火リスクにも備える必要がある河川であります。用地取得等に時間を要し、今回ようやく本格的な工事に着手できる段階になったというふうに向っております。まずは松川の砂防事業についてのこれまでの経緯と、工事完了の見通しについての御所見をお伺いします。

○千葉衛土木部長 蔵王町の松川砂防事業につきましては、流域内に火山噴出物が広範囲に分布しているため、大雨等による河床の洗掘及び河岸の侵食による被害や、蔵王山の噴火に起因する火山泥流による流域の温泉や市街地の氾濫被害を防止することを目的に、昭和五十二年より延長約九・六キロメートル区間において、河床を安定させるための床固め工などの溪流保全工事を実施するでございます。これまで河岸の浸食・荒廃状況等の評価しながら優先度を定め、上流域から計画的に工事を進めてきたところであり、現在は最終工区に当たります松川大橋付近から下八山橋付近までの約五・四キロメートル区間において、事業を進めているところでございます。本工事では委員御指摘のとおり、一部箇所におきまして多数相続により用地買収に時間を要しておりましたが、今年八月に用地取得ができたことから、当該区間の事業を推進するため、今回、令和八年度までに十億五千万円を限度とする債務負担行為を提案したものでございます。県といたしましては、議会の承認を得られた後、速やかに工事を発注しまして事業を進めるとともに、引き続き蔵王町と連携を図りながら、令和十年度の完成に向け取り組んでま

いりたいと考えております。

○吉川寛康委員 砂防事業はその溪流部の特性に合わせ、砂防ダムの整備や溪流保全工の実施など、溪流部の水の流れを遅くするとともに、一度に大量土砂の流出を防止することを目的に実施されている河川上流の溪流等の治水事業であり、大雨による土砂災害時には、土石流などをせき止め、下流域への被害を抑える効果を果たしております。このうち砂防ダムは、建設後のコンクリート寿命や堆積土砂の状況などを総合的に勘案しながら予防保全が進められ、施設の延命化が図られておりますが、時間の経過とともに堆積した砂防ダム内の土砂のしゅんせつは全国的にもあまり行われておらず、上流部への新たな砂防ダムの建設が一般的な対応として実施されております。これまで施工した県内の砂防事業の効果を今後もしっかりと維持していくためにも、定期的な設備の点検は重要であります。砂防ダムをはじめとした砂防事業の管理・修繕の現状についての御所見をお伺いします。

○千葉衛土木部長 県では、昨年度末時点で二千三百十五か所の砂防施設を管理しており、これまで年一回を基本とした日常点検により、施設の健全度や堆砂状況などを確認し、必要に応じて維持補修や支障木伐採を行うなどの維持管理に努めておりましたが、砂防施設の多くは五十年以上が経過していることから、今後、老朽化施設の増大が課題となつてございます。このため県では、既存施設の機能及び性能を長期にわたり維持・確保していくため、国のガイドラインも踏まえ、昨年度、宮城県砂防関係施設長寿命化計画を改定し、日常点検に加えまして具体的な定期点検の手法や健全度の評価とともに、修繕計画の優先度の考え方等について見直しを行い、重点的に砂防施設の長寿命化対策に取り組むこととしてございます。県といたしましては、本計画に基づきまして必要な予算を確保しながら適切な維持管理を行うとともに、計画的な修繕を行うなど予防保全型の維持管理に取り組んでまいります。

○吉川寛康委員 近年、大雨リスクの高まりとともに、生活していく上でも大きな脅威になっておりますが、気象庁によれば近年、線状降水帯の発生をはじめ、高強度の降雨の増加とともに、雨天時の総降水量が増加する傾向にあることから、昭和五十一年から昭和六十年までの十年間と、平成二十四年から令和三年までの十年間とを比較すると、一時間当たりの降水量が五十ミリ以上の短時間強雨の平均発生回数は約一・四倍に増え

ているなど、年々局地的に発生する短時間強雨の発生頻度が増加傾向にあることが示されております。こうした近年の頻発化・激甚化する大雨被害の現状を考慮すると、今後は従来以上に砂防事業の強化が強く求められていくことになると思いますが、この点についての御所見を伺います。

○千葉衛土木部長 県では、宮城県土木・建築行政推進計画に基づきまして、自然災害リスクの増大を踏まえた防災・減災対策による県土の強靱化を基本目標の一つに掲げまして、土砂災害から人命財産を保全するため、砂防ダム等のハード対策とともに、土砂災害リスク箇所の周知と早期避難の確保に向けたソフト対策を組合せ取り組んでございます。一方で近年の気候変動に伴いまして、土砂災害が頻発化・激甚化しており、特に土砂洪水氾濫や流木被害なども顕在化しているほか、全国では要配慮者利用施設や緊急輸送道路等の重要施設で大規模な被害が発生し、住民の避難の遅れや孤立の発生など多数報告されてございます。こうした状況を踏まえまして、県では昨年度「みやぎ砂防アクションプラン二〇二四」を策定いたしまして、県土の更なる強靱化に向け、従来のハード・ソフト対策の加速化に加え、流域治水砂防の観点による土砂洪水氾濫対策、計画的な老朽化施設対策、新たな土砂災害リスクか所の周知等を推進することとしてございます。県といたしましては本計画に基づきまして、引き続き、国の国土強靱化予算等を最大限活用しながら、総合的な土砂災害対策にしっかりと取り組んでまいります。

○吉川寛康委員 砂防事業は予算が膨大、そしてまた工期も長くかかるといってもありますので計画的に進めていく必要があるのだろうと思っておりますが、県内にはまだ多くの事業着手を待つ砂防指定地があります。砂防事業の工事の進捗はそれはそれとして、下流域の住家のあるところについては、この工事とはまた別に大雨時の避難を促すといったソフト対策を徹底することが、重要なのではないかと思っております。まずは、自然を守るとともに人の命を守らなければいけませんので、そういった意味では、工事の進捗、濃淡に関わりなく、まずは人命最優先で考えた場合は、このソフト対策の充実が重要なのではないかと考えてございます。こちら辺の現状と砂防指定地の完了の見通しも含めて、御所見があればお伺いします。

○千葉衛土木部長 砂防事業におけるハード対策は長期の事業期間を要しますので、土砂災害の危険周知等のソフト対策により、早期の住民避難につなげることが大変重要で

あると認識してございます。このため県では、市町村や町内会等を対象に、土砂災害に対する意識啓発を図るため出前講座等による防災教育を行うほか、六月の土砂災害防止月間におきましては、土砂災害危険箇所点検パトロールの実施や土砂災害防止に関する講習会、更には小中学生を対象とした絵画作文コンクールの開催などに取り組んでございます。また近年では、土砂災害警戒区域に加え区域以外でも土砂による被害が発生しておりますことから、国の指針を踏まえまして、より高精度な地形情報を用いまして、新たに土砂災害が発生するおそれのある箇所、約一万八千七百か所を抽出いたしまして、県民への危険周知のため今年五月に事前公表し、新たな基礎調査に着手したところでございます。なおハード対策につきましては、先ほどのアクションプランに基づきまして、避難所や要配慮者利用施設を保全するため、砂防施設等の百十二か所について優先して整備することとしてございまして、令和十二年度末までの完了に向けましてしっかりと推進してまいります。

○吉川寛康委員 最後の質問になります。砂防事業を進めていく上で私個人的には、まずは森林の持つ機能、これを最大限生かすことが大前提だと思っておりますので、そういった意味では水産林政部の森林管理事業、あるいは治山事業といったものと連携を図りながら行っていくのがなお効果的なのではないかと思っております。現時点での部門間の連携の状況なども含めて、この点についての御所見をお伺いします。

○村井嘉浩知事 しっかり連携をとっております。県内全流域に設置されました流域治水協議会で流域治水プロジェクトを策定いたしましたして、その中で森林整備、治山事業等を位置づけて計画的に事業を推進しております。しっかりと過去のデータを見て、優先順位をつけてやっていきたいと思っております。